

2021年7月30日
千代田化工建設株式会社
総務部 IR・広報・CSR セクション**適時開示説明会(電話会議)発表要旨**
(2021年7月30日開催)

2021年7月30日に開催致しました適時開示説明会(電話会議)における弊社の発表内容の要旨を以下にまとめております。2021年7月30日に発表した適時開示文「特別損失の計上及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」に沿って発表致しました。

1. 特別損失の計上

- 特別損失の計上は、過去の案件に起因する不確実性を取り除くことにより、キャッシュフローや損益を安定化させ、懸案事項の早期解決を図るもの。これにより、当社の経営資源を遂行中案件や将来事業に集中投入し、再生計画の着実な遂行を図っていく。
- 当社、日揮、KBR の 3 社からなるジョイントベンチャーは豪州イクシス LNG プロジェクトに関し、INPEX 殿を主要株主とする顧客と契約金額の調整及び精算金額の範囲について協議・仲裁を継続している。
- プラントは既に顧客に引き渡し済みで、顧客は 2018 年 10 月から LNG を生産・出荷しているが、本プロジェクトは設計・調達がランプサム契約、モジュール製作が数量調整条項付き契約、建設工事がリインバーサブル契約という複合的な契約形態になっていることから、増加した建設工事費の負担について、顧客とジョイントベンチャー間で協議・仲裁が行われてきた。
- しかしながら、コロナ禍もあって仲裁の更なる長期化が懸念されることから、今後予見される係争関連費用負担の益々の積み上がりや、大きな振れ幅のある仲裁・裁判結果を最終裁定・判決まで長期間に渡り追求するリスク等につき、改めて再検討してきた。
- こうした状況下、当社は顧客との協議を続けている、足元の協議状況を踏まえ、リスクを改めて評価した結果、204 億円を特別損失として計上することとした。
- 今回の特別損失の計上に伴うキャッシュアウトは発生しない。

2. 通期業績予想の修正

- 特別損失 204 億円の計上により、2022 年 3 月期通期業績予想の純利益を 60 億円からマイナス 140 億円へ修正する。
- 完成工事高、営業利益、経常利益は通期業績予想から変更はない。第 1 四半期の経常利益までの実績は修正前の通期業績予想に対して順調な進捗率となっている。
- 今回の特別損失は手持案件や再生計画の遂行に影響を及ぼすものではない。
- 当社は本年 2 月にカタールの大型 LNG プロジェクトを、7 月にインドネシアの銅精錬プロジェクトを受注し、受注残は 1 兆円以上を確保している。両プロジェクトとも入念なリスク分析を行ったうえで受注しており、プロジェクトを確り遂行することで、予定通りの収益を確保していく。
- 5 月 7 日の 2021 年 3 月期本決算発表と同時に公表した再生計画アップデートでご説明した通り、既存事業で確実に収益を確保しながら、再生可能エネルギー、水素・炭素循環、医薬・ライフサイエンスなどの新規事業を強化し、デジタルトランスフォーメーションを通じたビジネスモデルの付加価値向上を図ることで、事業ポートフォリオの変革を進め、安定的な収益基盤の確立を目指していく。
- 当社はステークホルダーの皆様の期待に応えるべく、役職員一同、企業価値の一層の向上に向けて邁進していく。

以上

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。